

『月刊』キリスト教書評誌

# 本のひろば

April  
2022 4

ISSN 0286-7001

一般財団法人キリスト教文書センター

1957年7月17日第三種郵便物認可

2022年4月1日発行(毎月一回1日発行)第772号

● 出会い・本・人

歴史を感じる学び 村上みか

● 特集 かくれクリシタンについて考えるなら、

この三冊！ 高崎 恵

● エッセイ

『旧約聖書の世界』・『新約聖書の世界』を上梓して 長田栄一

● 本・批評と紹介

アシジのフランシスコ・アシジのクララ著／

フランシスコ会日本管区 訳・監修

アシジの聖フランシスコ・聖クララ著作集 手塚奈々子

鎌野善三著 チャレンジ！聖書通読 佐藤司郎

大井 満責任編集 わたしたちの希望 山崎龍一

松本敏之著 ヨハネ福音書を読もう 上 古谷正仁

フロイド・ハウレット著／大倉一郎訳

教会教を越えて 小原克博

関西学院大学神学部編 宣教とパンデミック 越川弘英

平野克己著 説教 十字架上の七つの言葉 朝岡 勝

及川 信著 みちびきの星 岩佐めぐみ

既刊案内

書店案内

# ヤバイ神

不都合な記事による旧約聖書入門

トーマス・レーマー著 / 白田浩一訳 待望の書!

3月25日

旧約聖書には、神が横暴で残酷だという印象を与える記述が少なくない。そんな箇所をどう解  
釈すべきか。多くの人が躓くテキストを旧約学の第一人者が取り上げ、それらの表現の意味と  
理由を考察し、神の真の「人柄」に迫った、目からウロコの書。

◆四六判・定価2420円



# ビリー・グラハムと「神の下の国家」アメリカ

相川裕亮著

福音伝道者の政治性

(あいかわ・ゆうすけ氏は広島大学法学部助教)

アイゼンハワーからオバマに至る歴代大統領と親密な関係を通じて、「アメリカの牧師」として  
彼らの政策に有形無形の影響を及ぼしたビリー・グラハム。主に冷戦下70年代までの思想と行  
動を(福音伝道者)という観点から解明した俊英の力作。

3月10日

◆四六判・定価2750円

# アーバンソウルズ

オサジエフオ・ウフル・セイクウ著 / 山下壮起訳

2月25日

黒人青年、宗教、  
ヒップホップ・カルチャー

差別、貧困、警察暴力に包囲された黒人青年たちの救いはどこにあるか。都市の物質的・空間  
的荒廃から発現したヒップホップの靈性を証しする。著者はチャーチ・オブ・ゴッド・イン・  
クライスト牧師。ミュージシャン、映像作家としても活躍する。

◆B6変判・定価2640円



# 中世キリスト教の七つの時

片山寛著

中世思想史からキリスト教の核心へ

神学と哲学、大学と修道院、疫病と社会。これらの関係の中から神につ  
いての真理を探究し、膨大な思索を紡ぎ出してきた中世キリスト教。教理と社会の相互関係史  
を探究し、その問題の核心に迫った興味尽きない14編。

2月22日

◆A5判・定価2750円



# 死と命のメタファ

4月1日

キリスト教贖罪論とその批判への聖書学的応答

浅野淳博著

「贖罪」とは何か? イエスの死と命の救済的価値とは何か?

「キリストは人間に代わって罪を負い、いけにえとして死んだ」という代理贖  
罪的な表現はどこまで適切か。少数者に犠牲を強いる「犠牲のシステム」を  
キリスト教神学が内包しているとする哲学者・高橋哲哉氏の議論を批判的に  
捉えつつ、聖書が伝えようとしているキリストの死に至る生き様の真の意味  
を探り、その意味をいかに語るかを方向づける。

◆A5判・定価2970円

注目の近刊



## 歴史を感じる学び

村上みか

かつてバーゼル大学神学部で博士論文に取り組んでいたとき、『今日のカトリック教会のルター像』(Das katholische Lutherbild der Gegenwart, 1982)をはじめとするG・マロン氏 (Gottfried Maron) の作品に出会った。氏はエキュメニカルな視点に立ちつつ、「熱狂的な」エキュメニカル運動と頑なな教派主義を橋渡しすべく、対話と研究に取り組んだルター研究者である。氏は、第二ヴァチカン公会議以後、飛躍的に発展したカトリックのルター研究を分析・紹介しつつ、ルターをめぐる歴史理解から対話の可能性を引き出すべく模索した。緻密な歴史研究と明晰な神学思考に基礎づけられたエネルギーシユな作品に、歴史神学を学び始めたばかりの私は感銘を受け、その名を深く心に刻んだ。

それから20年以上の時を経て、氏を近くに知る思いがけない機会が与えられた。宗教改革500年を記念してミュンヘン大学からH・エルケ氏 (Harry Oelke) を同志社大学神学部にお

招きしたとき、彼がかつてマロン氏の助手であったと聞いたのである。私は勢いづき、尊敬する神学者がどのような人であったかと尋ねたところ、エルケ氏は、このような話をしてくれた。マロン氏、エルケ氏ともにバイクを好み、二人でよくキリスト教史の重要な地をめぐる研修旅行をしたという。その地に着くと、どちらかが建物や遺跡にまつわる報告を行い、歴史を体感する、そのような学びであったという。それを聞いて、歴史の現実との葛藤から生み出された氏の作品を思い起こし、納得した。

かねてより歴史の学びには歴史を感じるものが不可欠と考えていた私は、早速これを院ゼミに取り入れた。しかしこの研修は周到な準備と要を得た説明を必要とし、容易には成果を上げられなかった。学生には難しいかと諦めかけていたところ、学部ゼミ生が乗ってくれ、春のフィールドワークで実施すべく準備を進めている。うまくいくことを願いつつ…。

(むらかみ・みか 同志社大学神学部教授)



かくれキリシタンについて考えるなら、

## ▼この三冊！

高崎 恵

(たかさき・めぐみ・国際基督教大学アジア文化研究所研究員)

数年前、キリシタン関連報道が一般メディアを賑わした時期があった。世界文化遺産に推薦された「長崎の教会群とキリスト教関連遺産」が、翌二〇一六年に取り下げを余儀なくされ、「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」と装いを改めて二〇一八年に登録を果たした頃のことである。その間に、遠藤周作原作のハリウッド映画『沈黙』が世界に配信され、キリシタン大名高山右近が殉教者として列福されている。二〇一九年に訪日したローマ教皇フラ

ンシスコは、キリシタン時代の殉教者を表敬し、ミサにかくれキリシタンを招いている。

キリシタンは、近世初頭の日本におけるカトリックの流れをくむ宗教やその信徒を指す言葉である。江戸期の禁教下でキリシタンであり続けた人々を「潜伏キリシタン」、明治期の禁教解禁以降も教会に復帰せず、潜伏期のあり方を踏襲した人々を「カクレ／かくれ／隠れキリシタン」(以下「かくれ」書籍紹介の部分では著者の表記に従

う)とする用語も定着しつつある。

キリシタンは一六世紀中期から現在に至る歴史的事実で、教科書や歴史書、小説や映画やドラマ、漫画やアニメやゲームなど、各種媒体で日本人には既知の存在である。しかし、イメージと現実の間には大きな溝がある。

今回は、宗教学、民俗学、歴史学の立場からキリシタンの具体像に迫る三書を紹介したい。いずれもステレオタイプを打破し、キリシタンとは、キリスト教とは、宗教とは何かという根本的な認識の枠組みを問い直し、「かくれ」という他者を理解するヒントを与えてかれている。歴史的事実としてのキリシタンは、一回的かつ絶対的だが、同時代の文脈の中で概念化されていく柔軟で多様な可能性に満ちた存在でもある。「歴史は過去と現在との関係であり、未来に向けて開かれている」とは歴史学者ユルゲン・コツカの言葉

だが、キリシタンに対する問いが現代的状況のなかから生まれてくることを、三書は伝えてくれている。

### 宮崎賢太郎『カクレキリシタンの実像』

#### ——日本人のキリスト教理解と受容——

本書の第一部と第二部では、キリシタンの歴史と「カクレ」の現実がわかりやすく解説されている。「カクレ」に関する基本的な情報を得るには格好の一書である。

著者宮崎の原点には、「カクレ」の「実態」と「世間の認識」のズレを正すという使命感がある。弾圧を耐え忍び、仏教や神道を隠れ蓑として信仰を守り通したという定番の説明から想像されるような隠れ方はしていないし、その信仰の内実と、現代人が抱くキリスト教イメージには隔たりがある。近代西洋的なキリスト教観を前提にしているのは、「カクレ」の何たるかは見えてこ

ない。

宮崎が提示するのは、キリスト教的な要素を手放して日本的民俗宗教に変容した「カクレ」の姿であり、「カクレ」は「隠れてもいなければキリシタンでもない」という言明である。これは一九九六年刊行の『カクレキリシタンの信仰世界』以来一貫している。

父母ともに潜伏キリシタンの流れをくむカトリック家庭に生まれた宮崎が、その持論を形成した調査研究は、一九七〇年代後半から九〇年代を核とする。当時「カクレ」の組織は、後継者難による解散が続いていた。執筆者(高崎)が当時行った調査でも、解散に至る葛藤の中で「カクレ」の現実と一般的なキリスト教像との乖離(かひり)は露わになった。期待されるキリシタン像とは異なる存在であることを擁護する宮崎の視点は、一般社会の認識と「カクレ」の実像の齟齬(そご)に取り組んだ先駆けであり、当時

の「カクレ」に寄り添う視点の反映と言えるかもしれない。

キリシタン「らしさ」との断絶こそ「カクレ」の本質と謳(うた)う逆転(うつた)の発想は、二〇世紀末という時代に「カクレ」を意味あるものとして位置づけようとする試みの結実と言えるのかもしれない。

### 中國成生『かくれキリシタンの起源』

#### ——信仰と信者の実相——

中國の出発点も、ステレオタイプを払拭した「かくれ」の実相に対する関心にあるが、その主張は宮崎とは対照的だった。「かくれ」を禁教期の宣教師不在によって変容した姿と見る宮崎に対し、中國は近世初頭のカトリックとの連続性に注目する。

「かくれ」とキリシタンやキリスト教との非連続は、民間信仰との習合や、現世利益など土俗的・呪術的側面や、教義に対する無知を根拠に主張される。

しかし中園は、「かくれ」は仏教や神道など複数の信仰が並存する「多信仰」であるとして、その内の「かくれ」の部分とキリシタンとの連続性を明らかにした。加えて、非連続の論拠とされる先述の項目は、一六〇一七世紀の日本やヨーロッパのキリシタン／カトリック一般信者にも見られる特徴で、変容にはあたらないことも指摘する。キリシタンとの連続性を保った「かくれ」信仰の形成過程の説明が本書の核となっている。

本書は世界遺産登録目前の二〇一八年三月に刊行された。近代初期の教会群に焦点をおいた推薦を、世界に類を見ない長期の組織的禁教に特化した迫害↓潜伏↓潜伏の終焉といふストーリーに転換しての再推薦で実現した登録である。キリスト教世界への復帰によってキリシタンの歴史が終焉するこのストーリーに、近代以降を生きた「か

くれ」の居場所はない。近世初期のキリシタンと「かくれ」の連続性に対する中園の注目は、登録活動の方針転換よりも大分先んずるが、「かくれ」とキリシタンの連続性への注目の背景には、個別の文化をグローバルな文脈に位置づけていこうとする、時代の潮流がありそうだ。

第四章は、「かくれ」存続を可能にした活力として経済活動に注目し、辺境の貧しい民という「かくれ」のイメージへの反証としている。半島や島を辺境とみなす現代人の感性に異論を唱える意欲的な論考だ。また、最終章では、今回ご紹介する三書が共に疑義を呈する「一般的な」キリシタン・イメージが要領よく整理されている。

多角的視点からの「かくれ」理解をお求めの方々に、ご一読をお奨めしたい。

置のみならず、国家・社会のあり方を読み解いている。

第二は、潜伏キリシタンを単体ではなく、他のカテゴリーを俯瞰しながら横断的に分析する視点である。具体的には、隠し念仏や流行神など、世俗秩序を脅かす異端的宗教活動を検討し、江戸期のキリシタン統制の変化を明らかにしている。前掲二書にはない視点

だが、たとえば観光資源や文化コンテンツ等との横断的分析によって、「隠れ」から現代社会を逆照射する可能性を感じさせてくれる。

第三は、宗教という属性のみを切り取った一面的な理解を離れ、性別、身分、生業、村組織など、複数の属性をあわせもつ人間として潜伏キリシタンを見る多面的理解である。この視点は

## 大橋幸泰『潜伏キリシタン——江戸時代の禁教政策と民衆』

本書は「隠れ」ではなく潜伏キリシタンを扱っている。しかし、キリスト教はこうでなければ／こうであるはずという思い込みから脱却して潜伏キリシタンの姿に近づく方法論と手続きは、「隠れ」を考える上で有益な導きとなるだろう。

大橋も現代人の枠組で過去の宗教を評定する傾向に警鐘を鳴らしている。無意識の前提となっている自分の認識枠組を批判的にとらえなおし、潜伏キリシタンの営為を正確にとらえる方法として、次の三点が挙げられている。

第一は、キリシタンに対する同時代の認識への注目である。宮崎や中園と共通する問題設定だが、大橋は、「伴天連門徒」「切支丹」「異宗」「異法」などの呼称と用法の検討から、キリシタンに対する同時代の認識や社会的布

中園にも明確だが、大橋の射程はキリシタン理解にとどまらず、全体社会の正邪認識や、世俗秩序まで広がっている。

歴史学ならではの魅力的な方法論や刺激的な問題意識を伝授され、「隠れ」という他者理解の手ほどきを受けている心地にさせてもらえる一書である。



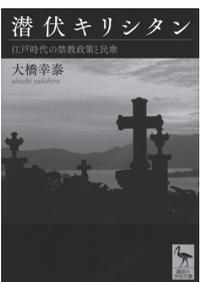
## 『かくれキリシタンの実像』

宮崎賢太郎：著  
吉川弘文館  
2014年刊  
四六判 248頁  
2,530円



## 『かくれキリシタンの起源』

中園成生：著  
弦書房  
2018年刊  
A5判 504頁  
4,400円



## 『潜伏キリシタン』

大橋幸泰：著  
講談社学術文庫  
2019年刊  
A6判 264頁  
1,155円

『旧約聖書の世界』・『新約聖書の世界』を上梓して  
著者は語る「聖書の世界への招き」

長田栄一

一昨年の『旧約聖書の世界』——その豊かなメッセージに聴く』に続き、『新約聖書の世界』——愛と真理の言葉に聴く』を上梓させて頂きました。

「随分かかった」というのが正直なところです。しかし、ここまでの時間は無為に流れたものではないことも自覚させられています。

一四年ほど前、赴任したばかりの教会で二つの説教シリーズを始めました。「旧約聖書入門」、「新約聖書入門」の二つで、旧約聖書、新約聖書の流れを理解するのに必要なそれぞれ六〇箇所からの説教シリーズでした。当然、聖書の最も基本的な箇所になるわけですが、これらの箇所を通して、教会の皆さんと共に聖書の最も基本的なメッセージを共に味わいたいと願いました。

このメッセージ・シリーズを始めるにあたり、週報別紙のような形で、少し長めの説教要旨を作成しました。礼拝に集えない教会員のため、また礼拝に出られた方も後で読

み返して頂けるようにと考えました。同時に、「これらの説教要旨が将来どこかで本になれば」という漠然とした願いもありました。

「聖書入門」というテーマのもとでの連続講解説教、あるいは説教集という形の聖書の入門書……当時、「ありそうで、ないかも」と思いましたので、そういう本があってもよいのではないかと考えました。そして、当初、それはそれほど難しいことでもないように思えました。

ところが、その後、自らの神学的理解の曖昧さ、不十分に直面する事態が続けて起こることになりました。詳細を記すには紙幅が足りませんが、それらのことの結果、福音とは何か、聖書の基本的な使信をどのように理解すべきか、継続的に取り組むべき課題として受け止めるようになりました。教団事務局への奉仕へと転任になったことより、牧会の現場から一歩距離を置いたところで、そういった課題にじっくり取り組むことができたのは感謝なことでした。

おそらく、『本のひろば』の読者の皆様が読まれたら、「それにしては稚拙、物足りない」などと感じられる向きもあるかと思いますが、それは、一方では私自身の神学的な理解の限界を示していることでしょう。しかし、他方ではこれらの書物の基本的性格によるところがあるかもしれません。信仰初心者を含め、聖書の世界に親しみ、聖書を通しての神の語りかけをできるだけストレートな形で聞き取っていただきたいという願いは、当初から変わっていません。

「旧約聖書が読み進められず、レビ記で止まっていたのですが、栄一さんの本を読んだから、進み、今、サムエル記まで到達しました。ありがとうございます。」今年、親戚の一人から頂いた年賀状の一文です。本にした甲斐があったと、主に感謝しました。  
(ながた・えいいち 日本イエス・キリスト教団大久保めぐみ教会牧師)



長田栄一  
そのゆたかなメッセージに聴く  
四六判・306頁・1980円・ヨベル

と共に、ためらいの中にも自分の中に二つの説教シリーズの書籍化へと踏み出す決心がつくようになりま



長田栄一  
愛と真理の言葉に聴く  
四六判・384頁・1980円・ヨベル

真の聖人像に迫る必読の書

〔評者〕 手塚奈々子



キリスト教古典叢書  
 アシジの聖フランシスコ・  
 聖クララ著作集  
 アシジのフランシスコ／  
 アシジのクララ著  
 フランシスコ会日本管区訳・監修



日本でアシジの聖フランシスコの著作に関しては、フランシスコ会司祭・研究者庄司篤氏の訳（『アシジの聖フランシスコの小品集』聖母の騎士社、一九八八年）が一般に知られている。しかし、日本のキリスト教界で、アシジの聖フランシスコや聖クララと言えば、映画「ブラザー・サン シスター・ムーン」に代表されるような、のどかなや甘ったるいイメージが通っている。しかし、実際には聖フランシスコにも聖クララにも、一三世紀西洋の使徒的・福音主義的運動のただ中で、福音書にあるイエス・キリストと使徒たちの生活への原点回帰に生きようとした厳しい真摯な面がある。今回の和訳は、フランシスコ会日本管区訳・監修『アシジの聖フランシスコ伝記資料集』（キリスト教古典叢書、二〇二一年、教文館）に続くものだが、日本人にとって、真の聖フランシスコ像・真の聖クララ像に

近づくに必須の書である。

この『著作集』は、フランシスコ会司祭・研究者小高毅氏、フランシスコ会司祭・研究者伊能哲大氏、クララ研究者三邊マリ子氏、フランシスコ会司祭・研究者小西宏志氏による訳であり、小高氏が全体を観閲されたが、同氏のオリゲネスの著作訳に見られる如く読みやすいが格調高いものとなっている。そして、この『著作集』は研究者向けである。小高氏がこの訳の出典等について「まえがき」で書かれ、伊能氏と三邊氏が「解説」で研究史と研究状況を書いている。キリスト教国でない日本で西洋研究が西洋諸国に比べ遅れている中で、研究者向けの書が出たことは、日本での今後の研究に光を与えるものである。フランシスコ会学派の神学者たちは、フランシスコの書き物等読み、会の時課をしていた。今回の和訳によってその神学者たちの

生そのものが知られ、真の思想に迫ることができる。これを踏まえて今後の日本での研究を期待したい。

なお、イタリアでは一般信徒もフランシスコとクララの書き物や伝記等容易に持つことができ、*Fonti Francescane* として知られ、日本での聖書個所言及のように *FF* と番号だけで研究者間だけでなく教会でも使われている。聖書に *FF* を入れた *Bibbia Francescana* もある。またフランシスカニズム研究にとって欠かせない辞書 *Dizionario Francescano* もあり、研究は膨大である。聖クララの「鏡」の思想研究も含めた書もある。G. Iannarone: *La cristologia francescana - Impulsi per il presente.* (以上 Edizioni Messaggero, Padova かゝ。)

最後に若干の批判であるが、イタリア版に比べ、和訳で注が聖書個所しかないことや脱字が時々見られることは残念である。また、パドヴァの聖アントニオへの手紙の真証性に関する問題提起があるが、彼が説教者として活躍した現実がある限り、聖フランシスコの許可がなければ彼の活動はあり得ないから、研究史上のこの問題提起は顧みなくてよいものである。

(つづか・ななこ) 明治学院大学経済学部教授、在世フランシスコ会  
 会員・奉献者

(A5判・三二二頁・定価五二八〇円・教文館)

ふたりのレジェンドが  
 現代の教会に贈る

ボクたちは  
 軍国少年  
 だった!

平和を希求する、  
 ふたりの自伝



同志社大学名誉教授  
 深田未来生  
 早稲田大学名誉教授  
 木村 利人

〔共著〕

戦時中「少国民」として軍事教育を受け、戦後、価値観の大変革で何も信じられなくなった「晩年反抗期」のふたりが、どのように平和を愛する者になっていったか。同志社大学で長く伝道者を育て続けた深田未来生と、日本における生命倫理のバイオニアであり、信徒としてキリスト教会を支え続けた木村利人、両氏が人生を振り返りながら、未来へのメッセージを語る。

目次

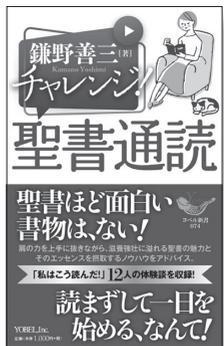
- 第一章 深田未来生のあゆみ
- 第二章 木村利人のあゆみ
- 第三章 対談  
 ・僕たちは軍国少年だった  
 ・エキュメニカル運動と日本の教会の諸課題  
 ・平和を実現するために
- 第四章 <深田未来生>  
 うまく生きるより、良く生きる
- 第五章 <木村利人>  
 「新憲法」の希望と光の中を生きる

四六判・182頁・定価1,870円(税込)

キリスト新聞社 since 1946  
 169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18  
 AVACOビル6階 TEL 03-5579-2432

### 聖書通読の効用を 心から訴えたい

〔評者〕 佐藤司郎



チャレンジ!  
聖書通読  
鎌野善三著



「チャレンジ! 聖書通読」、とても面白く読ませていただいた。ともかく著者の鎌野善三先生に脱帽である。小学校一年生のとき、お母さまからプレゼントされた、出来たばかりの口語訳聖書で「聖書通読」を始め、七十年近く、とってよいのでしょうか、通読に取り組み、この恵みを多くの人に伝え、分かち合ってもらえたこと、それだけでも驚き、どういふことか興味はつきない。

だれもが一度は、いな、一度以上は、聖書通読を決意し荒波にこぎ出した経験をお持ちのことと思う。私も何度か成功し、それ以上に何度も挫折して、いまでは、朝食のとき、妻が読む聖書にただ聞いているだけになってしまった(妻は十年かけて三回目のヨブ記に入っています)。またやってみようか、エンジンをかけようか、ちょっと無理か、迷っているところである。そんな自分にとっても、大い

るヒントと力を与えてくれる一書であった。

著者の長いご経験から生まれた本書は、五つの章にまとめられている。

第一章「聖書通読の益」では、聖書通読を軸に、著者の信仰の歩みが語られている。とくに面白かったのは、大学受験のときのこと。試験当日、朝の日課で読んだのはローマ書四章一八節「彼は望み得ないのに、なおも望みつつ信じた」。「なおも望みつつ信じた」は、試験問題を解いていた最中にも、何度も響いてきたという。そして見事合格。神様は確かに生きておられる。求めるなら答えてくださる。神のことばである聖書を通して」(二四頁)。

第二章「聖書通読の秘訣」は、著者の証しと共に、四つの秘訣が開示されている。1「時間と場所を確保する」。2「聖書の甘味を経験する」。3「励ましあう友人をもつ」。

第五章「聖書通読の証し」は、聖書通読に取り組んでおられる十二人の方の証しである。この中に読者は、どなたかの経験と一致するところを、必ず見つけることができるであろう。さて、たかが聖書通読、しかし、されど聖書通読である。

鎌野先生と一緒に、私も聖書通読の効用を心から訴えたい一人である。しかしこれも自分に合った仕方、方法でないとうまくいかない。本書を参考に、私どもも、思いを新たに聖書通読に取り組むことができれば、幸いである。

(さとう・しろう) 日本基督教団台北三番丁教会牧師  
(新書判・一六〇頁・定価一〇〇円・ヨベル)

4 「得た恵みを書き留める」。この章の、「通読が続かない人にお勧めしたいのは、教会の友人と、あるいは教会全体で始めることです」(五〇頁)というくだりは、その通りだと思った。じつは、私どもの教会でも、四十年前に、子育てで忙しい女性たちが集まって「素読」をはじめた会がいまも続いていて、五回目の詩編を読んでいる。他の教会やグループも、そういうところがいくつもあるのではないだろうか。

第三章は、著者の『3分間のグッドニュース』(全五巻。改訂版、二〇一九年)の使い方の手引きである。

第四章「通読でない読み方」。ある書全体を一気に読むなど、別の角度で聖書の世界にアプローチする方法がいくつか伝授されている。

### 山口雅弘

(宮城学院女子大学名誉教授 新免貞先生ご推薦!)

### ガリラヤに生きたイエス

発売同時反響拡大!

いのちの尊厳と人権の回復

イエスが生まれ育ち、民と共に暮らし、「神の国運動」の場となった「ガリラヤ」、その地に焦点を当てて聖書を捉え直す渾身の「キリスト教解体新書」。イエスの生き方の核心を描写。

新書判美装・三三四頁・一六五〇円

### 青野太潮

(西南学院大学名誉教授)

### どう読むか、新約聖書

読者拡大中!

読むか、新約聖書

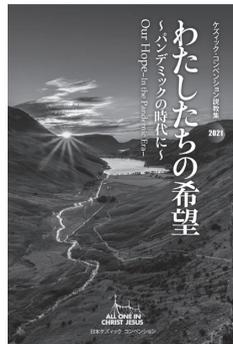
これならいける! 青野太潮の新約学。聖書学の常識は、信仰のヒジョウソウキ。この逆説と乖離の荒海を、いざ航海。私が挑戦しているのはむしろ、少くも新約聖書学の常識を日常のキリスト教信仰のなかに取り入れたこと(ことば)です。(本文57)

3版 新書判美装・二四〇頁・一三二〇円

ヨベル YOBEL Inc. info@yobel.co.jp  
〒113-0033 東京都文京区本郷 4-1-1-5F  
TEL03(3818)4851 FAX03(3818)4858  
出版の手引き / 呈 (税込)

# あたかも一人が語る ひとつの説教のよう

〈評者〉 山崎龍一



2021  
ケズイック・コンベンション説教集  
わたしたちの希望  
パンデミックの時代に  
大井 満責任編集



1875年、イギリス湖畔地方ケズイックの地で、「聖書の・個人的・実践的きよめ」が聖書講解説教よって語られる聖会として産声を上げ、日本では1962年に「日本キリスト者修養会」として始まったのが「日本ケズイック・コンベンション」です。2021年は60回を迎える節目の年でしたが、新型コロナウイルス感染拡大のためオンライン集会となりました。説教集は「わたしたちの希望」パンデミックの時代に」と題されることになったのです。

感染拡大は私たちに人生の計画の変更、社会に無力感・失望を与えました。ある人の人生が途絶え、遣された者に深い悲しみをもたらしました。その困難な時代に、神を信じる者の「聖さと希望」が語られたのです。開かれた聖書箇所は預言者の時代、バビロン捕囚帰還後の時代、異邦人としての歩みが困難な時代、キリストを信じるのが迫害

の説教では、自分の罪に嘆きながらも主の赦しに生きる中で、主は一人一人の人生に使命を与えてくださり、交わりの中で遣わされていくことが語られ、勇気と励ましを与えられます。

複数の説教者の異なる聖書箇所からの説教集なのですが、十字架の赦しに生かされ、聖霊に満たされ、現実の困難から目を背けずに歩む中で見えてくる希望が、あたかも一人が語るひとつの説教のように心に迫ってきます。

各地域の説教からも、人間の真の問題は突き詰めれば「罪と死」であるという人生の軸を明確にし、ヨナのようになにの御心の中で悔い改めて立ち返ること、教会内の困難に対しても互いに手を差し伸べることを、主のご計画は十字架という過去に実現した神の計画であると教えられます。さら

や死に繋がる時代と、聖書全体を網羅するかのようです。キリスト者のもつ希望とは、決して「困難に打ち勝って、前を向いて歩もう」というスローガンではなく、キリストの十字架と現在に続く聖霊の働きであることが、最初のメッセージから方向付けられています。

続く複数の説教では、困難の現実的解決ではなく「実践的きよさを促進」し、主への服従の生活、聖霊に満たされた生活を歩むことによって、希望に生きることが語られます。希望と忍耐という生き方は主の答えを「待つ」こと、「新たな決断」そして、そこに人生の真の勝利があると説教は続きます。勝利はキリストに似たものとされ、神と人に仕える人に変えられていくこと、希望とは「神との平和、今立っている恵み、神の栄光にあずかる」ことであり、その根源はみ言葉への傾聴であると語られます。さらに青年へ

に現実の困難に神の温かい支配が示され、犠牲的な愛を土台とし、キリストに似た者とされる生き方が示されます。

巻末にある説教集の書評の再集録に「説教者は外国人・日本人説教者を含め複数に渡るが、あえてここではその名を挙げない。説教する人間に価値があるのではなく、説教そのものの内容に価値があるからである」とあります。その言葉が表すように複数の説教者による異なる説教集であるにもかかわらず、ひとつの説教として私たちに語りかけてくるのです。まさにケズイック・コンベンションがキリストにあつてひとつのことを表わし、読む者に希望を与える一冊となっています。

(やまざき・りゅういち || お茶の水クリスチャン・センター 常務理事)  
(四六判・二〇〇頁・定価一四三〇円・ヨベル)

**ヨベルの新刊 / 重版案内**

日本基督教団  
仙台青葉区説教牧師  
**潮義男**

**創世記講解・下**

付録・ホーリネス誌掲載随想集  
新型コロナウイルスと教会

創世記  
23章〜50章

人のドラマが、神の物語か。尽きせぬ魅力を描写する。愛する者の死と葬儀、兄弟・姉妹・親族間の確執と葛藤、故郷喪失のあてどない放浪。その中で神の縦糸が個人を、世代を、どう貫いているかをパノラマのように見せる。礼拝で語られた講解説教、待望の下巻。魅力的な随想集も併録。  
新書判・344頁・1320円

日本イエス・キリスト教団西宮聖愛教会牧師  
**鎌野善三**

**3分間のグッドニュース「律法」**

聖書通読のためのやさしい手引き書

イスラエル黎明期の歴史絵巻のモーセ五書を収録。3分で一章まるごと呑み込める！  
再版出来！A5判美装・二〇八頁・一七六〇円

**鎌野善三 チャレンジ！聖書通読**

再版出来！再版出来！  
再版出来！再版出来！  
新書判・一五頁・二〇〇円

ヨベル YOBEL Inc. info@yobel.co.jp  
〒113-0033 東京都文京区本郷 4-1-1-5F  
TEL.03(3818)4851 FAX.03(3818)4858  
出版の手引き / 呈 (税込)

# 「キリストという鏡に 照らして生きる」人生への招き

〈評者〉古谷正仁



ヨハネ福音書を  
読もう上  
対立を超えて  
松本敏之著



著者の松本敏之牧師はとても愉快で優しい方である。初めてお会いしたのはもう二〇年以上前だろうか、若手牧師が出身神学校を越えて学ぶために集まっていた「礼拝研究会」の例会であった。集まった者たちと同年配か少し若かったのではないかと思うが、落ち着いた物腰で我々の「やんちゃな」発言もやんわりと受け止め、良き方向に導いて下さる思慮深さがあった。しばらく後、私が関わる神学校の全校修養会の講師としてお招きした時には、学生たちの心の届く深い神学理解に基づく講演の合間に、皆の爆笑を誘う「一発芸」を披露して下さり、学びだけでなく人間的な魅力でも私たちの心を捉えた。

以来私も松本ファンの一人となり、彼の著作なら迷わず購入することになっている。本書は『恩寵と真理』誌（同信社）に掲載された「ヨハネ福音書を読もう」に加筆し、引

用する聖書本文を聖書協会共同訳に改めたもので、ヨハネ福音書の一〇章までが四一の黙想によって扱われている。カバーには渡辺総一画伯による「和解をしなさい」が用いられている。カバーを見るだけで本書のメッセージが伝わってくる、素晴らしい選択と感じた。

四一の黙想はいずれも優しく丁寧な語り口の中に、深い聖書解釈に裏打ちされた適切なメッセージが示されたものである。著者による説教を毎週聞くことができる鹿児島加治屋町教会の信徒の方々はなんと幸せなことか。自分が牧師であることを忘れ、そんなことを思いつつ読んだ。

一例を挙げよう。本書の副題でもある「対立を超えて」と題する黙想は四章一九〜二六節を扱ったものだ。冒頭で著者は、主イエスがサマリアに赴かれたのは単にサマリアの女性と出会うためだけでなく「もっと大きなレベルで言

えば、サマリアとユダヤの対立を克服されるためであったということもできるでしょう」（九九頁）と述べる。福音を個人生活のレベルに焦点を合わせてしまいがちな私たちに、大きな視野が提供される。そしてユダヤ人とサマリア人の対立の根について歴史的な観点から簡潔に語られた後、サマリア人の女性による二〇節の発言を受けてこう述べる。「彼女はどちらが本当の礼拝の場所か、ということを探りましたが、主イエスはそれに対して『救いはユダヤ人から来る』（二二節）という聖書の歴史を踏まえつつ、それを超えたところからお答えになりました。そうした二者択一そのものが問題なのであり、そのような発想そのものを退けられたと言ってもよいでしょう」（二〇一頁）。対立を超えるには、二者択一へのこだわりを捨てるのが大切なのだ。

そして「今の世界は、分裂・対立の方向、自分と違った相手を自分の支配下におこうとする方向と……お互いに生かしていると思いません。そういう中で、果たして神様はどのような世界を望んでおられるのかということをたずね求めなければなりません」（一〇三頁）と結ばれる。私たちが向き合うべき課題が示されるのである。

一見難解なヨハネ福音書の世界を、著者という良きガイドから学び、多くの方々「キリストという鏡に照らして生きる」（二二四頁参照）人生の旅に、共に出発したい。

（ふるや・まさよし）日本キリスト教団詩田教会牧師、日本聖書神学校教授

（四六判・二四〇頁・定価二六四〇円・日本キリスト教団出版局）

青山学院大学の営みを支える  
祈りのアンソロジー



大学の祈り  
見えないものに目を注ぎ  
青山学院大学宗教主任会 編著

青山学院大学でささげられた入学式・卒業式、箱根駅伝祝勝会など行事の祈りから、パソコンの調子が悪い時などの日々の祈りまで多数収録。原晋氏（青山学院大学陸上競技部監督）推薦！  
四六判並製・128頁・定価1320円

信仰をうたう詩人 中山直子の詩文集



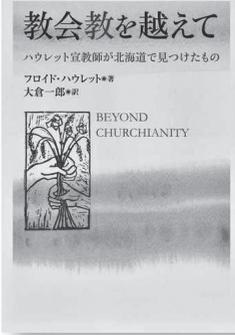
二羽の小鳥  
信仰の尽きぬよろこび  
中山直子

詩人、中山直子が詩とエッセーで主の恩寵をうたいあげる。各月の信仰詩、詩篇につながる詩文エッセー、生涯に関するエッセーなどを収録。小島誠志氏（日本基督教団久松教会牧師）推薦！  
四六判上製・186頁・定価1980円

日本キリスト教団出版局  
〒169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18  
☎03-3204-0422 ☎03-3204-0457  
E-mail eigyou@bp.uccj.or.jp 《価格10%税込》  
<https://bp-uccj.jp>

# 北海道で伝道・社会活動に励み「和解」を追求した宣教師の歩み

〔評者〕 小原克博



教会教を越えて  
ハウレット宣教師が  
北海道で見つけたもの  
フロイド・ハウレット著  
大倉一郎訳



本書は、カナダ合同教会の宣教師として妻ドリーンと共に来日し、一九五一〜八一年の三〇年にわたって、北海道北部の名寄市を中心に宣教活動に携わったフロイド・ハウレットの自伝である。ハウレットは日本基督教団との協定に基づいて派遣され、教団の諸教会や牧師たちと深い関わり合いを持つことになった。ハウレットが日本を離れた十数年後に、私は札幌で牧会者としての歩みを始めたということもあって、本書の中で記されている北海道の光景や地名、直接・間接に知っている人々の名前を目にするたびに、彼が記す北海道での出会いや出来事に引き込まれていった。ハウレットの働きの後継者となった、本書の「日本語版まえがき」を記しているロバート・ウィットマー宣教師（現在、農村伝道神学校校長）と初めて出会ったのも北海道においてであった。

の強制収容や原爆投下等）に鋭敏な目を注ぎ、戦争などの不正義によって引き裂かれた人々の間の「和解」を追求した。本書では、彼が日本で経験した様々な社会問題についても触れられている。そして、彼が「教会教（Churchianity）を越えて」というタイトルを本書につけたのも、そのことに関係している。

「教会教」という、ほとんどの辞書に掲載されていない言葉を使うにあたり、ハウレットは「擬似的キリスト教を中心に据えた教会から、本物のキリスト教を分離する挑戦」（一一頁）として自らの人生を要約している。彼の視点からすれば、地域の問題であれ、国際的な問題であれ、人々の苦しみに関わる正義や平和の課題に向き合えない教会は「擬似的キリスト教」であり、組織維持を目的とする「教

では、特に北海道や宣教師の活動に関わりがない人にとつて、一宣教師の自伝はどのような意味を持つのだろうか。本書は、「歩んできた道には、いつも興味が尽きず、新たな挑戦と期待に満ちていた」（二六三頁）と語るハウレットの冒険の人生を通じて、彼が生きた戦後日本を、そして、宣教の歴史を振り返り、そこにあった課題が何であったのかを読者はあらためて確認することができるだろう。日本キリスト教史において宣教師が果たした役割は時代によって異なる。本書は、戦後日本においても宣教師が固有の働きと貢献をしたことを示すだけでなく、国や文化の違いを越えた交流が、それまで見えなかった地平を双方に開いていく宣教的意義を具体的な事例を通じて教えてくれる。ハウレットは若い頃にフェアバンズ牧師ら平和主義者の影響を受け、戦争やそれがもたらした悲劇（日系カナダ人

会教」ということになる。

本書は一二章から成っている。一章から九章まではハウレットの信仰の旅路を、そこで出会った人々を交えて生き生きと記している。最後の三章はその旅路を神学的に考察したものになっている。彼が解放の神学の様々な潮流から影響を受けていることや、日本という宣教の場において日本の諸宗教に関心を向けていたことがわかる。

本書が、安心して読むことのできる正確な訳出となっていること、背景には、多大な努力を惜しまなかった訳者と、それを手助けした同労者たちの存在がある。ハウレットの宣教的情熱に連なる人々の思いが結実した一書である。

（こはら・かつひろ 同志社大学神学部教授）  
（A5判・三〇〇頁・定価一九八〇円・日本キリスト教団出版局）



## 新刊 死生学年報 2022

### スピリチュアルケアの可能性

東洋英和女学院大学  
死生学研究所編  
●A5判並製 定価2,750円

風景空間の再生  
体験を根底から支えるところ  
森岡正芳

美しい時が舞う  
ある急性白血病患者が生きた時間  
岸本寛史

人体資源化の時代  
香川知晶

傾聴をどう学ぶか  
上智大学グリーンケア研究所での  
経験から  
葛西賢太

聖書の死生観  
旧約における待望の蓄積から  
新約の時の満ち足りへ  
千葉 恵

キケロとレオ一世  
「人間の尊厳」の最古層を尋ねて  
土井健司

メディア報道にみる  
無縁墓の戦後史  
何が問題とされたのか  
間芝志保

他、2篇・死生学文献紹介

LITHON [リトン]  
〒101-0061 千代田区神田三崎町2-9-5-402  
TEL03-3238-7678 FAX03-3238-7638

## コロナ禍の今こそ、 教会と礼拝を問おう！

〔評者〕 越川弘英



関西学院大学  
神学部ブックレット14  
宣教とパンデミック  
関西学院大学神学部編



本書は昨年2月に行われた、関西学院大学神学部・第55回神学セミナーの内容をまとめたブックレットである。本書には一昨年以来のコロナ禍における教会の状況や経験の報告、その神学的実践的な考察が含まれており、時宜に合った企画であると言える。内容は、「主題講演（中道基夫）、「現場報告」（家山華子、高木愛、松本あずさ、赤松真希）、「神学講演」（小田部進一）、「パネルディスカッション」（橋本裕樹、橋本かおり、古澤桃代）、「礼拝学演習報告」（金省延、金仁恤）、「あとがき」という構成である（敬称略）。

現役の牧師たちによる報告やパネルディスカッションは、予想だにできなかったコロナ禍に直面したそれぞれの教会の困惑や労苦、そうした状況に対する創意工夫や新たな実践を伝えており、強い共感を覚えるとともに、有益な示唆を与えられた。

水面下で存在してきた関係性喪失時代の問題がより深刻化しないか心配です」（51頁）と語り、コロナ禍が教会に問う問題の本質を信仰と愛による共同体の形成という課題に方向づけている。これは是非とも読むべき論考である。

学生の実践報告も興味深い。私が担当する同志社大学神学部（大学院）でも二〇二一年度にオンライン礼拝を作成するゼミを行ったが、両者に通底する可能性や課題も感じた。今風の「Z世代」の特徴かも知れないが、ネットなどの技術的なことさらに対する学生の知識や能力にはいつも驚かされる。だがしかし神学部なのだ。この時代にこそ、「礼

私見によれば、本書の白眉と言うべきは、小田部進一の神学講演「パンデミックと宗教改革 《新しい生活》を求めめる精神の動きに注目して」である。このタイトルを最初に見たとき、コロナ禍という喫緊の問題に対し、なんと迂遠なテーマかと感じたが（小田部先生、ごめん！）、実際に読んでみると、ここに取り上げられている五百年前のパンデミック（ペスト禍）のもとでのルターの主張と行動が、まさしく今現在の教会とキリスト者（とりわけ牧会者）に対する貴重な神学的かつ実践的示唆であることを実感した。信仰義認、全信徒祭司主義、キリスト者の自由、隣人愛といったルターの思想とパンデミックがどのように結びつくか、感染症対策に関する合理的で柔軟な発想、教会共同体にとってこうした災厄が有する意味など、まさに現在の問題を先取りしたかのような。講演者は「コロナ禍以前から

拝とは何か」「教会とは何か」という主題を徹底して学び、また論じた学生の意見をもっと聞きたかった。

学生に限らないが、オンライン礼拝などの教会のICT化に関する楽観的すぎる主張に対して、私はいくつも疑問を持っている。こうした疑問が私個人の世代的な限界から来るものなのか、教会・礼拝・キリスト教信仰の本質に抵触する疑問なのか。自らのこうした課題を考える上でも本書は示唆的であった。

（こしかわ・ひろひで 同志社大学キリスト教文化センター教員  
（A5判・一八二頁・定価一五四〇円・キリスト新聞社）

### 〈スコットランド信仰告白〉 による信仰入門

歴史・本文・講解

原田浩司  
HARADA Koji

宗教改革の精神を  
次世代に繋ぐために！  
聖霊と改革者の熱い息吹  
が注がれた歴史的な信仰  
告白から教理の要点を学  
び、今日を生きる教会の  
確かな信仰の盾とする。

A5判  
定価 1,760 [本体 1,600 + 税] 円  
ISBN978-4-86325-133-5

株式会社 一麦出版社  
札幌市南区北ノ沢3丁目4-10  
TEL (011) 578-5888  
<https://www.ichibaku.co.jp>  
携帯 [mobile.ichibaku.co.jp](https://mobile.ichibaku.co.jp)

## 十字架からの声が響き出る説教

〔評者〕朝岡 勝



説教  
十字架上の七つの言葉  
イエスの叫びに教会は建つ  
平野克己著



本書を読み終えて真っ先に心に浮かんだのは、代田教会の礼拝堂に座って説教を聴いている自分の姿でした。評者は代田教会に行ったことがありません。著者の説教を礼拝の場で聴いたこともありません。けれども本書に収められた説教を読み続けるうちに、まさに礼拝堂で説教壇から語られる肉声が聞こえてくるような思いになりました。説教集という書物の読書経験というよりも、説教集を通しての説教聴聞の経験でした。

説教集には絶えずある種のジレンマが伴います。固有の時と場で、固有の聴き手たちに向けて語られる説教。それは一回的なものです。そこには説教者という生身の存在から発せられる声があり、説教者と会衆との対話があります。キリストの現臨される礼拝の持つ特殊な空気感です。しかしそれが書物という形になるとき、その固有性や特殊性は

性です。2月16日の礼拝出席者116名が4月12日には10名だったと記されます。コロナ禍のもとで闘う教会の姿を想像させる言葉です。こうしてひとつひとつの説教を読み進めていくと、単純な一般化を拒むほどに固有な代田教会という一つの群れの姿、その群れに向かって語る説教者の姿が浮かび上がってくるのです。

本書が説教集のジレンマを越えて語りかけてくるのはなぜか。それは著者の思想の広がりを読み手の現実をも包み込んでいくからです。罪の闇の深さ、生きることへの渇き、尽きることのない欲望、混沌とした社会の先行きへの不安、そして新型コロナウイルスと死への恐れ。目の前の聴き手たちを思いつつ祈りの中で思い巡らした著者の言葉が、読み手の心の隅々にまで響いてきます。さらに、いずれの説教も教会への言葉として語られているがゆえに、コロナ禍のもとで散り散りようになっていく私たちも、十字架のもの

後退し、一般化が生じます。声は文字に転換されます。固有の時と場を想像はできても読み手の状況とは異なります。繰り返す手にして読むことができますし、一気に終わりで読み通すこともできます。時にはパラパラ斜め読みということすら起こります。いつそのこと「説教と説教集は別物」と割り切ってしまう方がよいという考えもあるでしょう。

しかし本書はそのジレンマを乗り越えた一冊です。ここに収められた説教は「2020年2月16日から4月12日まで、日本基督教団代田教会の主日礼拝において語った説教」(まえがき)とあるように、いずれも特別な固有性を帯びています。それは①「コロナパンデミックが拡大の一途に向かう中での」②「代田教会創立82周年の」③「受難節からイースターにかけての」礼拝で語られ続けたという固有性とに集められた教会としてこの言葉を聴くことができます。そして何よりの理由は、著者がひたすら十字架のキリストに集中し、十字架のもとに私たちを集めているからです。「私の願いは、七回の説教を終わり、イースターの朝を迎え、皆さんがこの十字架を仰いだとき、(中略)この十字架から声が鮮やかに響き出すようになることです」(43頁。81頁や84頁も参照)。この願いはこの説教集においても果たされたと思います。少なくとも評者にとってはそうです。十字架の上から語られるキリスト、死からよみがえられて語られるキリストの福音の言葉を聴くことのできる幸いを感謝します。説教の言葉と見事に呼応する井上直さんの挿画とともに、今年の受難節に同伴する一書として心からお勧めします。

(あさおか・まさる) 東京基督教大学理事長  
(四六判・二二六頁・定価一八七〇円・キリスト新聞社)

あらずで迎える新しい聖書入門!

# 読めるわかる、聖書のストーリー

竹ヶ原政輝 [著]  
日本基督教団高の原教会牧師  
同志社大学キリスト教文化センター  
チャプレン

世界の創造  
アブラハムの召命  
イスラエル王国の盛衰と滅亡  
イエスの誕生  
十字架と復活  
教会の誕生と宣教  
終末

天地創造からイスラエル王国の盛衰、イエスの誕生、十字架と復活、使徒たちの活動まで。

大学を舞台に多くノンクリスチャン学生と共に、聖書に向き合ってきた若手牧師が書き下ろす、聖書のグランドストーリー!

第一部【物語編】  
聖書の〈あらずじ〉をわかりやすく解説。  
第二部【文書編】  
66巻の各書簡の内容と特徴を簡潔丁寧に解説。

A5判・288頁・定価2,200円(税込)

キリスト新聞社  
169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18  
AVACOBビル6階 TEL 03-5579-2432

主に捧げるブーケ

〈評者〉岩佐めぐみ



クリスマス小品集  
みちびきの星  
及川 信著



かつて、内容を知らずジャケットに惹かれて本やCDなどを買うことを「ジャケット買い」といいました。

美大卒の身としては（その成績は脇におくとして）ジャケットはとても気になるのです。けれどジャケット買いで失敗したことは少なくないし、逆にこの内容ならもつと違うジャケットが似合うのでは？ と感じることもあります。

本書を一目見た瞬間「私はこれを買わなくてはいけない！」と久々に心沸き立ちました。この素敵なジャケットをまとう本はいったいどんな——？

期待は裏切られませんでした。ジャケットとみごとに調和した素晴らしい一冊！ もう大満足です。

まずお伝えしたいのは表現の豊かさ。日本語とはこんなにも優しく、しなやかで美しいのかと改めて驚かされます。私たちに与えられている日本語は宝物だと誇らしくなりま

した。同時に、この宝がその価値をどんどん失いつつあるような危機感も覚えました。使われることは数が減り（新しいことばは生み出されていますが）、思いや考えなど、大切にされなくてはならない心の表現も単純化されてきているのでは、と。

そういう私も手紙よりメール、ラインのやり取りにスタンプを多用している一人……反省です。

なので、大人はもちろんのこと、ルビもふられているので、ぜひ子どもたちも本書の多彩な表現に触れてほしいと切に願います。

特徴的なのは「」（スペース）で区切られて、「」（読点）が抑えられていること。小川のような心地よいその流れに誘われ、声に出して読みたくなるのです。すると物語は細部までさらに色づき息づくのがわかります。

どうぞ、この本をクリスマスシーズンに括ることなく、いずれの季節であつても手に取っていただきたいです。神様を知らない人は神様へと導かれ、すでに神様を知った人は、主が確かに生きておられ私たちの傍らにいてくださること、今日も主のご計画の中で導いてくださっていることを再認識するでしょう。

内容をほんの少しご紹介します。マタイの福音書で心を痛めてきた、二歳以下の男の子殺害について「イエスをたすけたクモ」で私ははじめて慰めを得ました。今後、同じ箇所を読むときには痛みを超えて主の愛に目を向けたいです。

「乳香の木」では、木の崇高な祈りに私の霊も共鳴して思わずひざまずき、祈りをささげました。

タイトルともなっている「みちびきの星」は天地創造から救い主の誕生までを一つの星を通してたどります。空を見上げ「あの星にも聖なる仕事を与えられているのかな？」と思いを馳せ、「地上にいる私も使命を果たさせてください」と主に願わずにいられませんでした。

ひとつ読むごとに心に花ひらくような小品が七つ。最後にはこの一冊が主に捧げるために束ねられたブーケに思えました。

しずかでありながら強い感動がもたらされ、大きく深呼吸。

そこには数パーセントのため息が混じっていたことを告白します。ああ、私もこんな作品が書けたらいいのになあ、という……。

そんなあこがれも含め、この余韻をいつまでも味わっていたい、消えてほしくないとページをめくっていたら巻末にうれしいニュースを発見！

『イースター小品集 ピラトの妻』（仮題）二〇二三年春 刊行予定とのこと。

今度はどんな世界に導いてもらえるのでしょうか。

（いわさ・めぐみ 児童作家・ぶどうの木土浦チャペル）

（四六判・一七六頁・定価一五〇〇円・ヨベル）

村椿嘉信著 \*絶賛発売中\*

荒れ地に咲く花

生きることを愛すること

混沌とした時代にあつて、社会のさまざまな問題と関わりながら、どのように生きるべきなのか。イエスは「愛すること」が決定的に重要だと指摘した。

ヨベル YOBEL Inc.  
お問い合わせ: info@yobel.co.jp  
情報: http://www.yobel.co.jp

四六判・160頁  
定価 1,320円  
ISBN978-4-909871-43-5



お客様が満35周年を迎えることが出来ました。良書を提供できるよう邁進したいと思います。

2021年度のベストセリングの本



# 岩本遠億 366日元気が出る聖書のことば



# 鎌野善三 3分間のグッドニュース

森住ゆき 和紙ちぎり絵作家：私は今まで、これほど心にしみる聖書日課を読んだことがありません。中澤啓介 大野キリスト教会宣教師：この50年間、私は、デポーシヨナルな書物を毎年変えながら家庭礼拝を守り続けてきた。一番良かった書物は何か？ 文句なく「366日・・・書物だ」と答えたい。

第4版出来！ A5判変型上製・三二八頁・一九八〇円

岩本遠億先生の自伝的エッセイ編集集中！ 「ご予約承り中」

**聖霊の上昇気流** (仮題)

7月刊行予定 四六判・二二四頁・予価一七六〇円

絶賛発売中！  
3分で一章まるまる読める！  
聖書全巻読み込める！

- 3分間のグッドニュース
- 3分間のグッドニュース
- 3分間のグッドニュース
- 3分間のグッドニュース

好評再版！  
各巻 A5 判美装・1760円



再版準備中！ 新書判・一六〇頁・一一〇〇円

**新刊 チャレンジ！ 聖書通読**

編・著・訳者	書名	判型	頁	定価(税込)	版元	発行日
日本基督教団宣教研究所委員会編	宣教の未来 —五つの視点から	A5	238	1,650	日本キリスト教団出版局	12/1
松本敏之	ヨハネ福音書を読もう上 —対立を超えて	四六	240	2,640	日本キリスト教団出版局	12/15
イアン・W・プロヴァン著 渡邊さゆり訳	ニューセンチュリー 聖書注解 哀歌	A5	194	5,500	日本キリスト教団出版局	12/20
鎌野善三	チャレンジ! 聖書通読	新書	160	1,100	ヨベール	12/3
大井満責任編集	ケズイック・コンベン ション説教集2021 わたしたちの希望 —パンデミックの時代に	四六	208	1,430	ヨベール	12/3
金子晴勇	キリスト教思想史の諸時代IV —エラスムスと教養世界	新書	272	1,320	ヨベール	12/17
デンキンゲ著/マイデ ン版画/遠藤正子訳	カルヴァン小伝	A4	36	1,320	一麦出版社	12/11
フランシスコ会 日本管区訳・監修	キリスト教古典叢書 アシジの聖フランシスコ・ 聖クララ著作集	A5	312	5,280	教文館	12/16
近藤勝彦	キリスト教教義学 上	A5	1210	14,300	教文館	12/24
関西学院大学神学部編	関西学院大学神学部 ブックレット14 宣教とパンデミック	A5	122	1,540	キリスト新聞社	12/17
深田未来生、木村利人 共著	ボクたちは軍国少年だった! —平和を希求するふたりの自伝	四六	182	1,870	キリスト新聞社	12/20
手東正昭	恩寵燦々と —聖霊論的自叙伝 下 雄飛の時代	四六	400	2,200	キリスト新聞社	12/21
早坂文彦	「洗礼」をめぐる —今日聖書はなにを語っているか	新書	256	1,210	ヨベール	1/11
月本昭男	見えない神を信ずる —月本昭男講演集	四六	200	2,420	日本キリスト教団出版局	1/24
工藤万里江	クィア神学の挑戦 —クィア、フェミニズム、キリスト教	A5	316	4,730	新教出版社	1/25
坂本道子	ディアコニツセの 思想と福祉実践 —ある奉仕女の人物史を中心に	A5	304	4,840	教文館	1/26

2021年刊行の話題の既刊書！ シリーズは再版準備中

金子晴勇 **キリスト教思想史の諸時代** 全7巻 刊行中！  
II アウグスティヌスの思想世界 別巻2 272頁・1320円  
III ヨーロッパ中世の思想家たち 272頁・1320円  
IV エラスムスと教養世界 288頁・1320円

金子晴勇 **東西の霊性思想** キリスト教と日本仏教との対話  
再版！ 四六判上製・288頁・1980円

大頭真と焚き火を囲んで聴く神の物語・説教篇 モーセ五書全8巻刊行中！  
③ 栄光への脱出—出エジプト記 192頁・1210円  
④ 聖なる神の聖なる民—レビ記 192頁・1210円  
⑤ 何度でも何度でも何度でも愛—民数記 264頁・1210円

河野勇 **一人はどこから来て、どこへ行くのか？**  
《神のかたち》の人間観 四六判上製・400頁・2200円

小友 聡 **謎解きの知恵文学 旧約聖書・「雅歌」に学ぶ**  
新書判・224頁・1210円

〔宮城学院女子大学名誉教授〕新免貢先生ご推薦！  
早坂文彦 〔心理相談室主宰、臨床心理士、公認心理師〕

**「洗礼」をめぐる**  
今日聖書はなにを語っているか

洗礼そのものは救いをもたらさない。まして教会加入の儀式などではない。

洗礼を権利と義務へ制度化してきた教会のあり方を聖書原典を分析解釈、精読することによって批判・検討し、「水で始まり、火で終わる」洗礼を受けたナザレ人イエスを遡行することで洗礼本来の意味に迫る「洗礼論」！

新書判・二二四頁・二二〇〇円

書店名	郵便番号	住所	電話	ファックス	URL	メール	郵便振替
北海道キリスト教書店	060-0807	札幌市北区北七条西6丁目	011-737-1721	011-747-5979	http://www.jp-shop.com	sasaki@jp-shop.com	02770-2-56520
善隣館書店	020-0025	盛岡市大沢川原3-2-37	019-654-1216	共用		zenrikan_syoten_0530@ghoo.co.jp	02350-0-874
仙台キリスト教書店	980-0012	仙台青葉区1-3-3 穀穂センター・イワヒ	022-223-2736	共用		fcqwk524@ybb.ne.jp	02230-0-31152
恵泉書房	260-0021	千葉市中央区新富2-2 千葉カリスチャペル	043-238-1224	043-247-3072	http://www.keisen.christian.jp	keisen@vestia.ocn.ne.jp	00120-9-43619
教文館	104-0061	東京都中央区銀座4-5-1	03-3561-8448	03-3203-4186	http://www.avaco.info	xbooks@kyobunkwan.co.jp	00120-2-11357
アバコ・ブックセンター	169-0051	東京都新宿区西早稲田2-3-18	03-3203-4121	03-3203-4186	http://www.avaco.info	avaco@avaco.info	00130-0-96398
待農堂	167-0053	東京都杉並区西荻南3-16-1	03-3333-5778	共用	http://taishindo-books.jimdo.com/	taishindo@jcom.home.ne.jp	00110-8-95827
バイブルハウス青山	104-0061	東京都中央区銀座4-5-1	03-3567-1995	03-3567-4435	http://biblehouse.jp	biblehouse@bible.or.jp	00160-2-18410
横浜キリスト教書店	231-0063	横浜市中区花咲町3-96	045-241-3820	045-241-5881	http://www.lighting.jp/~yokohamais/mbs.html	sksch@mva.biglobe.ne.jp	00250-4-2512
清光書店	951-8114	新潟市営所通一番町313	025-229-0656	共用			00560-8-51419
静岡聖文舎	420-0866	静岡市葵区西草深町20-26	054-260-6644	054-260-5612	http://www.s-seibun.co.jp/	info@s-seibun.co.jp	00810-8-26558
名古屋聖文舎	464-0850	名古屋市中区今池5-28-4	052-741-2416	052-733-2648	http://nagoya-seibunsha.la.coccan.jp/	nagoya-seibunsha@nifty.com	00810-5-14073
京都ヨルダン社	602-0854	京都市上京区荒神口通河原町東入ル	075-211-6675	075-211-2834	http://web.kyoto-net.or.jp/people/kyotan/	kyotan@mbox.kyoto-net.or.jp	01010-2-594
大阪キリスト教書店	530-0013	大阪市北区茶屋町2-30	06-6377-6026	06-6377-6027	http://osekacbs.web.fc2.com/	ochrbook@river.ocn.ne.jp	00990-3-43009
バイブルハウスびるすの森	591-8041	堺市北区東雲東町1-1-16	072-257-0909	072-253-6132		sakai-jbs@bible.or.jp	00160-2-18410
神戸キリスト教書店	650-0021	神戸中央区三宮町3-9-18三陽ビル2F	078-331-7569	078-945-9388		kobex@nikkihan.co.jp	00170-2-421390
広島聖文舎	730-0841	広島市中区舟入町12-7	082-208-0022	082-208-0177		hseibun0951@yahoo.co.jp	01360-4-1958
リバーサイドブックス	779-1105	徳島県阿南市羽ノ浦町古庄大道/西13	090-8694-4986	050-3142-3017		ykwb3@gmail.com	16220-17974891
松山キリスト教書店	790-0804	松山市中一丁目1-23	089-921-5519	089-921-5413	http://www.geoties.jp/matsuyama_107/mbs.html	sksch@dokidoki.ne.jp	01650-1-2120
北九州キリスト教ブックセンター	802-0022	北九州小倉北区上富野5-2-18	093-967-0321	共用		kcbookcenter@bible.or.jp	01780-4-39965
新生館	810-0073	福岡市中央区舞鶴2-7-7	092-712-6123	092-781-5484	http://www.sinseikan.jp/	info@sinseikan.jp	01750-5-10932
キリスト教書店ハレルヤ	862-0971	熊本市大江4-20-23	096-372-3503	共用		k-haleruya@bible.or.jp	00160-2-18410
沖縄キリスト教書店	904-2151	沖縄市松本7-18-7	098-927-0220	098-938-1102	https://www.okinawacbs.net	info@okinawacbs.net	1790-4-152916

※一般書店関係の方は 日キ販営業部 TEL 03-3260-5670 にご連絡ください。

## 聖書協会共同訳準拠の「詩編」ガイドブック

「主は私の羊飼い 私は乏しいことがない」

ユダヤ教、キリスト教の伝統の中で歌い継がれてきた「詩編」格好の入門書



聖書協会共同訳

NEW

## 詩編をよむために

多様な読み方が可能な詩編を、最新の聖書協会共同訳で味わうための道先案内となる、ガイドブックです。聖書協会共同訳の詩編の翻訳事業に携わり、各専門分野の第一線で活躍中の先生方による、それぞれの視点からの行き届いたレクチャーが、詩編の豊かな世界へ導きます。

A5判、並製本、ジャケット掛け、160ページ

発行元：日本聖書協会

税込価格1,210円

(本体1,100円)

ISBN978-4-8202-9280-7



『詩編をよむために』  
各項目の  
タイトルと執筆者

- 「詩編の基礎知識—構成、技法、研究史、そして……」 飯 謙
- 「詩編に親しむ—心に泉を」 春日 いづみ
- 「川のある風景」 石川 立
- 「天を仰いで神に歌う—悲しみ、嘆き、報復の詩がなぜ詩編にあるのか」 石田 学
- 「詩編を日本語で歌う—「典礼聖歌」を手がかりとして」 西脇 純

### 参考書籍



## 詩編(抜粋)—主は王となられた—

聖書協会共同訳の13の詩編が付いた「詩編」ガイド。スモールグループでの聖書の理解に役立ちます。元日本聖書協会翻訳部主事、現「聖書を読む会」総主事・鳥先克臣氏(元牧師、ヘブライ言語学博士)監修。

A5判、並製本、96ページ 発行元：聖書を読む会

税込価格770円(本体700円) ISBN978-4-915748-19-6



「詩編(抜粋)—主は王となられた—」は聖書を読む会の発行となります。お問い合わせは、下記までお願いいたします。

聖書を読む会

〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台 2-1 OCC ビル内  
e-mail: sykoffice21@gmail.com http://www.syknet.jimdo.free.com/

■お求めは全国のキリスト教専門書店またはwebへ

JBS 日本聖書協会

〒104-0061 東京都中央区銀座四丁目 5-1 聖書館ビル  
e-mail: distri2@bible.or.jp https://www.bible.or.jp/



# 福音と世界

2022年4月号

特集 警察は必要か

寄稿者 高祖三郎、平田周、大日方純夫  
小島伸之、堅田香緒里、吉田寮広報室

本誌七〇周年に寄せて（関田寛雄・絹川久子）、  
『福音と世界』におけるジェンダー、セクシュ  
アリテイ表象（工藤万里江）／好評連載  
福音書（山崎ランサム和彦）、『日本のキリスト  
教』を読む（山口陽二）、アジアの草の根・平和  
の証し人（宇井志緒利）ほか

A5判・定価660円・〒70円  
定期購読についてはお気軽にご相談下さい。

新教出版社 TEL: 03-3260-6148  
Email: sales@shinkyō-pb.com

## 編集室から

では現在最も広く使われている太陽暦は？

現代の太陽暦は、古代ローマでユリウス・カエサルが導  
入したものを1582年に教皇グレゴリウス13世が修正し  
たのが基になっているが、太陽の運行を基にした暦なら、  
冬至なり春分の日なりを起点にしても良いはず。また  
キリスト教の暦なのだから、例えばクリスマスマスを1月1日  
と決めてしまっても良かったのではないか。今の1月1日  
がこの日であることに特に意味があるとは思えない。

「1月1日はなぜ1月1日なのか？」と疑問に思ったことがある。

太陽暦であれば、日付は「三日月」  
などの月の満ち欠けで決まる。月は  
季節に応じて、和暦であれば冬至が  
11月に来るよう調整されるそうだ。

## 予告

本のひろば

2022年5月号

本・批評と紹介

（巻頭エッセイ）高橋貞二郎、（書評）坂本道子著  
『ディアコニッセの思想と福祉実践』、近藤勝彦著  
『キリスト教教義学 上』、水草修治著『新・神を  
愛するための神学講座』、工藤万里江著『クイア  
神学の挑戦』、早坂文彦著『洗礼』をめぐって』  
他

調べてみたところ、どうやら起点が問題ではなく、  
基準となったのが春分の日、ということらしい。325年  
のニカイア公会議で春分の日を3月21日とすることが決め  
られていて、グレゴリオ暦が導入される際この日が実際の  
春分の日と合致するようにカレンダーを定めたそうだ。  
なぜ春分の日かと言えば、それはイースターの日付を定  
めるための規準となるからだ。イースターは、イエスが起  
こされたことを受けて使徒たちが立ち直ることができた、  
ある意味キリスト教が始まった時を記念するものだろう。  
その最も大切な日を決めるための春分の日が暦の基準とさ  
れたということに、大いに納得したことを覚えている。  
ちなみに、なぜ春分の日が3月21日なのかまではわから  
なかった。それがわかれば、1月1日が1月1日である理  
由も完全にわかるはずなのだ。（村上）

49の命題から簡潔に学べるキリスト教思想史

# キリスト教 神学命題集

ユスティノスからJ.コーンまで

土井健司／村上みか／芦名定道／島田由紀 監修



2022年3月24日刊行

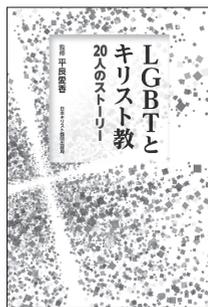
◆A5判 並製・256頁・定価3520円  
思想的文脈、影響を簡潔に解説。  
生み出した神学者の生涯、時代的・  
命題を時代ごとに整理、各命題を  
神学のエッセンスを表現した49の  
命題を時代ごとに整理、各命題を

『信徒の友』連載に書き下ろしを加えて書籍化

# LGBTと キリスト教

20人のストーリー

平良愛香 監修



2022年3月25日刊行

◆四六判 並製・240頁・定価2200円  
LGBT当事者を中心とした20名  
の体験記。性的少数者の生きづら  
さと同時に、社会や教会で確実に  
体現しつつある希望や実例を語る。

コロナ危機を初代教会の危機に重ねて聖書に聴く

# ペトロの 手紙を読もう

危機の時代の「生ける望み」

井ノ川 勝



2022年3月15日刊行

◆四六判 並製・208頁・定価2420円  
迫害の危機と信仰の危機に対して  
希望を語るペトロの手紙一・二を、  
コロナ危機と重ねて読み解き、希  
望の在り処を探る黙想16編。

日本語で書き下ろす聖書注解シリーズ最新刊

# VTJ 旧約聖書注解 サムエル記上 1～15章

勝村弘也



2022年3月25日刊行

◆A5判上製・450頁・定価7260円  
サムエル誕生の話、イスラエルに  
王制がもたらされるまでの紆余曲  
折などが見事に解き明かされる。  
「神の箱」などのトピックも充実。

一九五七年七月一日 第三種郵便物認可  
二〇二二年四月一日発行 毎月一回一日発行  
本のひろば 第七七二号 二〇二二年四月号

3月の新刊 (価格表示は税込)

好評であった  
『夜も昼のように』  
に続く第二弾！



光は闇のなかに

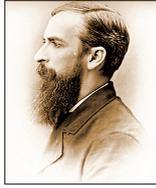
## 光は闇のなかに

御言葉の真実と神の創造の御業が響き合う、深い慰めの世界。小島誠志氏の聖句  
断想と、自然写真家森本二郎氏の写真の美しいハーモニー。

『夜も昼のように』好評につき重版出来！ギフトブックに最適！

● 四六判変型・並製・64頁・定価1,320円

小島誠志文  
森本二郎写真



## タムソン書簡集 日本基督教団新栄教会タムソン書簡集編集委員会 訳

幕末から52年間にわたり日本伝道に奉仕  
したデビッド・タムソン。日本における信教の  
自由の実現に奔走し、日本基督教東京公会の  
設立をはじめ日本プロテスタント黎明期に  
多大な貢献を果たした宣教師の知られざ  
る働きを明らかにする貴重な史料。

● 四六判・上製・420頁・定価6,880円



人口登録、特殊な律法、反抗の物語、旅程、  
詩文等が不可解な配列を見せる民数記。  
従来の資料分析では見えない独特の文脈  
を解明し、「主の姿(テムナー)」を軸に展開  
される民数記の統一的神学を再構築した  
画期的な書！

● A5判・上製・416頁・定価6,820円

## モーセの仰ぎ見るテムナーとは何か 民数記1-36章における構造分析 長谷川忠幸 著



## メンデルスゾーンの宗教音楽

バッハ復活からオラトリオ『パウロ』と『エリヤ』へ

星野宏美 著

ロマン派を代表する天才作曲家の知  
れざる本質に迫り、「ドイッチ・プロ  
テスタント音楽の継承者」としてその  
生涯を再評価する、本邦初の研究書！

● 四六判・並製・300頁・定価2,200円

## 日本におけるキリスト教保育思想の継承 立花寛、南信子、女性宣教師の史料を巡って

熊田凡子 著

明治期にキリスト教保育を始めた女性  
宣教師たちの保育思想は、日本人保育  
者によつてどのように継承されたのか。  
その展開を源流から通史的に実証し、  
戦時下の幼児教育の記録から、戦前戦  
後に通底する保育観・教育観を解明  
する。

● A5判・上製・520頁・定価8,800円



教文館

〒104-0061 東京都中央区銀座4-5-1  
電話 03-3561-5549 (出版部直通) 《呈・図書目録》

キリスト教の書籍やCD、グッズのご注文は(e-shop 教文館)  
<http://shop-kyobunkwan.com/> まで！



定価七八円(税抜七一円) 定63円  
二年分一三〇〇円(送料共)